

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調査（平成30年度分）

団体名：宇治田原町

プロジェクト名	うじたわらっ子育てプロジェクト		実施期間	平成30年度～	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	本町の人口は平成17年の10,060人をピークに減少に転じ、労働力の減少や地域活力の低下、社会保障費の増加など様々な面で影響が懸念されている。 住民アンケート調査では、人口増加を求める意向が多く、若いファミリー層は児童施設や子育て支援の充実を望む声が多くなっている。このため、結婚や子どもを産み育てやすい環境整備に努める必要がある。							
プロジェクトの目的及び概要	「若い世代の希望をかなえ、元気なうじたわらっ子育てを育む」ため、出産や子育てに関する不安を解消する各種子育て支援制度を充実させるほか、英語教育など、特徴ある教育プログラムの実施により、子どもの可能性を伸ばす環境づくりを行うとともに、子どもや家族が気軽に集まることのできる交流の場を形成する。							
総事業費（千円）	34,185	本年度事業費（千円）	34,185	交付金額（千円）				10,092
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	育児用品購入助成事業	交付対象事業	乳児の子育てに係る保護者の経済的負担を軽減するため、おむつ等育児用品の購入費用を助成する。			○育児用品購入助成金 ・対象人数 54人		
	もうすぐ1年生保育所体育教室実施事業	交付対象事業	町立保育所に通所する児童を対象に、就学前に体得しておきたい運動能力等について専門家による指導を行う。			○体育教室 ・開催回数 年間16回 実施内容 遊戯・マット運動、器具運動、ボール遊び、縄跳び、ボール運動		
	保育所安心安全対策事業	交付対象事業	町立保育所内の安心安全対策の向上を目的として、安全監視員を配置し不審者侵入の防止を行う。			○安全監視員配置 ・配置時間数 1,038時間 ・配置日数 290日 ・保育所送迎時における事故発生件数 0件 ・保育所内への不審者侵入件数 0件		
	高校進学学費補助金	交付対象事業	保護者の経済的負担軽減と生徒の進学支援推進のため、高校等の進学に係る費用に対して補助を行う。			○高校進学学費補助金 ・補助件数 249件		
	英語力向上推進事業	交付対象事業	生徒の英語への意欲向上と英語活用能力の向上のため、英語検定の受験を促進する。			○希望者一人につき1回分の受験費用の支援を実施。 ・合格者数 第2級 6名 第3級 25名 第4級 69名 第5級 53名		
	子育て支援医療費支給事業	関連事業	出生から中学校修了までの子どもを対象に医療費の助成を行い、安心して子どもを育てる環境を整備する。			○出生から中学校修了までの医療費助成 ・年度末受給者数 1,047人 ・府制度のみ（満3歳未満） 165人 ・府制度と町制度 882人		
	子育てサービス利用支援事業	関連事業	地域子育て支援センターに保健師を配置し、保健センターの母子保健事業等と一体となって、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない子育て家庭への支援を行う。			○実績 ・母子手帳交付 53人 ・不妊治療申請 7人 ・授乳育児相談 32人 ・妊婦相談 7人 ・妊婦相談 51人		
	不妊治療給付事業	関連事業	経済的負担の軽減を図るため、不妊治療を受けている夫婦等に費用の一部を助成する。			○不妊治療助成件数 ・不妊治療 13人		
	母子保健事業	関連事業	乳幼児と母親の健康増進を図るため、保健指導や乳幼児健康診査、乳児家庭訪問等を行う。			○マタニティ事業 ・ハイリスク妊婦訪問 7件 ○新生児訪問 ・訪問児数 50件 ○乳幼児健康診査事業 ・乳幼児一三歳児 ・健康相談・発達相談 54件 ・離乳食教室 6回		
	幼稚園教育振興事業	関連事業	私立幼稚園に在籍する園児の保護者に対して入園料及び保育料の支援を行う。			○補助実績 16件		
	放課後児童健全育成事業	関連事業	児童の健全な育成を図るため、保護者が労働等により昼間家庭にいない児童に対し、遊びや生活の場を提供する。			・田原元気っ子クラブ 平均登録人数 62人 1日平均 39.6人 開設日数 264日 ・宇治田原元気っ子クラブ 平均登録人数 65人 1日平均 44.8人 開設日数 263日		
	保育所運営費	関連事業	保育所を適正に運営する。			○平成30年度 待機児童0人		
住民協働事業	少子化対策推進事業	交付対象事業	婚活支援事業をはじめ、関係機関・団体と連携し、子育てしやすいまちを目指した少子化対策事業を行う。			○少子化対策プロジェクト ・「宇治田原町を知らせてもらう 来てもらう」をコンセプトに府内を模範とした若手職員で事業を検討 ○婚活の推進事業 ・男性限定婚活講座参加者 9人		
	病児・病後児保育事業	関連事業	体調不良となった児童に対し保護者が迎えに来るまでの間、看護師による対応を図る。また病児病後児について近隣病院の病児保育室で保育を行う。			○病児・病後児型及び体調不良児型病後児保育事業を実施。 ・体調不良児型利用延べ人数 787人 ・病児・病後児対応型利用延べ人数 17人		
	放課後子ども教室推進事業	関連事業	地域住民の参画を得て、放課後に子どもたちがスポーツや文化体験活動等を行う。			○通称「まなび茶らん」の実施 田原小学校、宇治田原小学校 各23回		
成果指標	成果指標の目標数値	出生数（年間）：65人		成果指標の実績値	出生数（年間）：49人（平成30年度）			
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）少子化対策はまちの将来のために喫緊の課題となっており、様々な施策を強化しているところであるが、それ以上に社会全体の少子化が進んでおり、出生者数が目標値に達しなかった。		（時期）			
成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）							
成果指標	成果指標の目標数値	保育所待機児童数：0人		成果指標の実績値	保育所待機児童数：0人（平成30年度）			
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）町立保育所では待機児童が0人が続いており、児童を受け入れる状況は整っている。本町の人口との兼ね合いもあるが、今後とも待機児童数を減らさないよう取り組みを続ける。		（時期）			
成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）							
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	「若い世代の希望をかなえ、元気なうじたわらっ子育てを育む」ため、上記事業を展開し、子育てに関する事業が充実してきた。しかし、全国的な課題である少子化の流れを解決できる施策であるとは言い難く、今後、少子化対策のための事業を創工夫する必要がある。							
※未達成の場合も効果に記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	みらい戦略一括交付金を活用した事業と町の単独事業とを組み合わせ、プロジェクトとして一体的に推進することで、上記目標に繋がる成果をあげることができた。						
	府と市町村等との連携に資する成果	少子化対策プロジェクトチームを結成し、町内の事業所と意見交換や交流を深めることで、少子化に対する課題を発見することができた。						
	住民の自治意識を高める成果	少子化対策プロジェクトチームを結成し、町内の事業所と意見交換や交流を深めることで、少子化に対する課題を発見することができた。						
	リーディング・モデル成果	少子化対策プロジェクトチームを結成し、町内の事業所と意見交換や交流を深めることで、少子化に対する課題を発見することができた。						
	広域的波及成果	少子化対策プロジェクトチームを結成し、町内の事業所と意見交換や交流を深めることで、少子化に対する課題を発見することができた。						
	行財政改革に資する成果	少子化対策プロジェクトチームを結成し、町内の事業所と意見交換や交流を深めることで、少子化に対する課題を発見することができた。						
その他の成果	少子化対策プロジェクトチームを結成し、町内の事業所と意見交換や交流を深めることで、少子化に対する課題を発見することができた。							

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは－を記載すること。